

7つの約束の見方

6 7つの約束

- 「7つの約束」とは、「子ども達の笑顔あふれる弘前づくり」を実現するために掲げた政策です。
- この表では、現状と課題とこれを踏まえためざす姿やその達成状況を示す指標を説明するとともに、「約束」を実現するための手段である個別施策の名称を記載しています。
- 概算所要額は、毎年度の予算編成の中で精査するとともに、財源の確保に努めます。
- めざす姿に向けた達成状況は、毎年度評価を行い、公表します。
- 個別施策の取組内容やその実施スケジュール等は、「個別施策工程表」をご覧ください。

「めざす姿」の達成状況を表す指標の基準となる数値を「基準値」として設定しています。

アクションプランの計画期間（平成22～25年度）に達成すべき目標を「目標値」として設定しています。

「基準値」及び「目標値」は「市民評価アンケート」や「業務データ」等から取得します。

約束.1

市民主権システムを実現します。



「7つの約束」の名称です。

この「約束」における現状と課題を記載しています。

この「約束」がめざす将来の弘前市の姿です。

この約束が「めざす姿」の達成状況を表す指標（ものさし）です。

現状と課題

- 市民のニーズの多様化・高度化により、従来の行政主導によるまちづくりには限界がきています。
- 地域住民の連帯感の希薄化により、地域活動、コミュニティ活動が停滞しています。
- 市民と行政が役割や機能を分担し、協働によるまちづくりを進めていくためには、市民との対話や情報共有により市民の市政への参加意識の高揚を図り、また地域活動、コミュニティ活動を推進するための取り組みが必要となっています。

めざす姿

市民と行政の情報共有・対話が促進され、市民が主体のまちづくりが進められています。

指標

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名（太字は注目指標）	基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
① 市民と行政が同じ目的を持ちパートナーとしてまちづくりに取り組んでいると思う市民を増やします。	(H21) 13.0%	20.9%	22.0%	25.0%	市民評価アンケート
② 市民参加型まちづくり1%システム支援事業数100事業を目指します。	—	—	100件	100件	業務取得
③ 「市長車座ミーティング」、「わたしのアイデアポスト」、「市政懇談会」など市民から広く意見を聞く広聴活動に満足している市民を増やします。	(H21) 61.3%	63.7%	68.0%	70.0%	市民評価アンケート

④	広聴事業への参加者数を増やします。	(H22) 5,120人	5,551人	5,644人	5,617人	業務取得
⑤	「広報ひろさき」、「市ホームページ」など市民に広く市政情報を提供する広報活動に満足している市民を増やします。	(H21) 73.0%	74.3%	76.0%	77.0%	市民評価アンケート
⑥	公募可能な審議会等における公募実施割合100%を目指します。	(H22) 19.0%	30.0%	100%	100%	業務取得
⑦	町会や公民館、地区社協などの地域活動に参加している市民を増やします。	(H21) 28.1%	31.1%	32.0%	33.0%	市民評価アンケート
関連指標	弘前市長選挙投票率	(H12.1.30) 42.82%	(H16.2.1) 50.42%	(H18.4.16) 55.57%	(H22.4.11) 58.06%	業務取得
関連指標	弘前市議会議員一般選挙投票率	(H11.4.25) 64.06%	(H15.4.27) 57.07%	(H19.4.22) 59.77%	(H23.4.24) 50.83%	業務取得

関連指標

毎年度数値を取得することができないなど「指標」とすることになじまないものの、めざす姿の達成状況を評価するためには、その推移を把握する必要がありますと思われる項目です。今後の自己評価と第三者評価の判断材料とします。

個別施策

スマイル スマイル33プログラム チャレンジ チャレンジ67 新規施策 新規施策

市民が主体となったまちづくりを実現します。

- スマイル 1-1 市長の給与の決定について市民の評価などを反映 [1]
- スマイル 1-2 市民参加型まちづくり1%システムを導入 [1]
- チャレンジ 1-6 各種審議会の公募枠を大幅増（女性や若者など多様な意見を市政に反映） [1]
- 新規施策 1-8 自治基本条例制定に向けた取り組み [1]

市民との対話を促進します。

- スマイル 1-3 市民評価アンケートの定期的な実施 [1]
- スマイル 1-4 市長車座ミーティング、車座ランチ（市政懇談会の見直し） [2]
- スマイル 1-5 市役所内への“市民参画担当チーム”の設置 [1]
- チャレンジ 1-7 ホームページへの携帯サイト構築、メールマガジン定期配信 [3]

この約束が「めざす姿」を実現するための手段である個別施策の名称です。

年度別概算所要額

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額	643,000円	当初予算額 63,061,000円	当初予算額 67,409,000円	2012策定時概算所要額 67,685,000円
2010策定時概算所要額	438,000円	2010策定時概算所要額 68,691,000円	2010策定時概算所要額 67,977,000円	2010策定時概算所要額 67,977,000円

アクションプラン2010からの主な変更点等

指標

- 旧指標「市政に意見が言える機会・場所・方法について満足している市民を増やします。」を、市民にわかりやすく「③「市長車座ミーティング」「わたしのアイデアポスト」、「市政懇談会」など市民から広く意見を聞く広聴活動に満足している市民を増やします。」に修正（第三者評価による提言）
- 旧指標「市政情報の提供量や内容に満足している市民を増やします。」を、市民にわかりやすく「⑤「広報ひろさき」、「市ホームページ」など市民に広く市政情報を提供する広報活動に満足している市民を増やします。」に修正（第三者評価による提言）
- 旧指標「携帯サイトのアクセス数200,000件を目指します。」を削除（第三者評価による提言）
- 旧指標「メールマガジン登録件数1,900件を目指します。」を削除（第三者評価による提言）
- 旧指標「「わたしのアイデアポスト事業」の投書件数140件を目指します。」を、「④広聴事業への参加者数を増やします。」に統合（第三者評価による提言）
- 旧指標「市政懇談会の参加者数（主催者・弘前市町会連合会）1,000人を目指します。」を、「④広聴事業への参加者数を増やします。」に修正（第三者評価による提言）
- 旧指標「公募枠のある審議会等の割合50%を目指します。」を「⑥公募可能な審議会等における公募実施割合100%を目指します。」に修正するとともに、基準値、実績、目標値を修正（第三者評価による提言）
- 関連指標「弘前市長選挙投票率」を追加（第三者評価による提言）
- 関連指標「弘前市議会議員一般選挙投票率」を追加（第三者評価による提言）

個別施策

- 1-4の事務事業数を「1」から「2」に変更
- 1-7の事務事業数を「2」から「3」に変更
- 1-8「自治基本条例制定に向けた取り組み」を追加

この「約束」のめざす姿を実現するために実施する施策に係る概算での所要額を記載しています。

アクションプラン2010からの主な変更点等を指標・個別施策ごとに記載しています。

凡例

約束.1**市民主権システムを
実現します。****現状と
課題**

- 市民のニーズの多様化・高度化により、従来の行政主導によるまちづくりには限界がきています。
- 地域住民の連帯感の希薄化により、地域活動、コミュニティ活動が停滞しています。
- 市民と行政が役割や機能を分担し、協働によるまちづくりを進めていくためには、市民との対話や情報共有により市民の市政への参加意識の高揚を図り、また地域活動、コミュニティ活動を推進するための取り組みが必要となっています。

**めざす
姿**

市民と行政の情報共有・対話が促進され、市民が主体のまちづくりが進められています。

指 標

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名（太字は注目指標）	基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
① 市民と行政が同じ目的を持ちパートナーとしてまちづくりに取り組んでいると思う市民を増やします。	(H21) 13.0%	20.9%	22.0%	25.0%	市民評価アンケート
② 市民参加型まちづくり1%システム支援事業数100事業を目指します。	—	—	100件	100件	業務取得
③ 「市長車座ミーティング」、「わたしのアイデアポスト」、「市政懇談会」など市民から広く意見を聞く広聴活動に満足している市民を増やします。	(H21) 61.3%	63.7%	68.0%	70.0%	市民評価アンケート
④ 広聴事業への参加者数を増やします。	(H22) 5,120人	5,551人	5,644人	5,617人	業務取得
⑤ 「広報ひろさき」、「市ホームページ」など市民に広く市政情報を提供する広報活動に満足している市民を増やします。	(H21) 73.0%	74.3%	76.0%	77.0%	市民評価アンケート

⑥ 公募可能な審議会等における公募実施割合100%を目指します。	(H22) 19.0%	30.0%	100%	100%	業務取得
⑦ 町会や公民館、地区社協などの地域活動に参加している市民を増やします。	(H21) 28.1%	31.1%	32.0%	33.0%	市民評価アンケート
関連指標 弘前市長選挙投票率	(H12.1.30) 42.82%	(H16.2.1) 50.42%	(H18.4.16) 55.57%	(H22.4.11) 58.06%	業務取得
関連指標 弘前市議会議員一般選挙投票率	(H11.4.25) 64.06%	(H15.4.27) 57.07%	(H19.4.22) 59.77%	(H23.4.24) 50.83%	業務取得

個別施策

スマイル 1-1 スマイル33プログラム チャレンジ 1-6 チャレンジ67 新規施策 1-8 新規施策
[]内は事務事業数

市民が主体となったまちづくりを実現します。

- スマイル 1-1 市長の給与の決定について市民の評価などを反映 [1]
- スマイル 1-2 市民参加型まちづくり1%システムを導入 [1]
- チャレンジ 1-6 各種審議会の公募枠を大幅増（女性や若者など多様な意見を市政に反映）[1]
- 新規施策 1-8 自治基本条例制定に向けた取り組み [1]

市民との対話を促進します。

- スマイル 1-3 市民評価アンケートの定期的な実施 [1]
- スマイル 1-4 市長車座ミーティング、車座ランチ（市政懇談会の見直し）[2]
- スマイル 1-5 市役所内への“市民参画担当チーム”の設置 [1]
- チャレンジ 1-7 ホームページへの携帯サイト構築、メールマガジン定期配信 [3]

アクションプラン2010からの主な変更点等

指標

- 旧指標「市政に意見が言える機会・場所・方法について満足している市民を増やします。」を、市民にわかりやすく「③「市長車座ミーティング」「わたしのアイデアポスト」「市政懇談会」など市民から広く意見を聞く広聴活動に満足している市民を増やします。」に修正（第三者評価による提言）
- 旧指標「市政情報の提供量や内容に満足している市民を増やします。」を、市民にわかりやすく「⑤「広報ひろさき」「市ホームページ」など市民に広く市政情報を提供する広報活動に満足している市民を増やします。」に修正（第三者評価による提言）
- 旧指標「携帯サイトのアクセス数200,000件を目指します。」を削除（第三者評価による提言）
- 旧指標「メールマガジン登録件数1,900件を目指します。」を削除（第三者評価による提言）
- 旧指標「「わたしのアイデアポスト事業」の投書件数140件を目指します。」を、「④広聴事業への参加者数を増やします。」に統合（第三者評価による提言）
- 旧指標「市政懇談会の参加者数（主催者：弘前市町会連合会）1,000人を目指します。」を、「④広聴事業への参加者数を増やします。」に修正（第三者評価による提言）
- 旧指標「公募枠のある審議会等の割合50%を目指します。」を「⑥公募可能な審議会等における公募実施割合100%を目指します。」に修正するとともに、基準値、実績、目標値を修正（第三者評価による提言）
- 関連指標「弘前市長選挙投票率」を追加（第三者評価による提言）
- 関連指標「弘前市議会議員一般選挙投票率」を追加（第三者評価による提言）

個別施策

- 1-4の事務事業数を「1」から「2」に変更
- 1-7の事務事業数を「2」から「3」に変更
- 1-8「自治基本条例制定に向けた取り組み」を追加

年度別概算所要額

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
決算額	643,000円	当初予算額	63,061,000円	当初予算額	67,409,000円	2012策定時概算所要額	67,685,000円
2010策定時概算所要額	438,000円	2010策定時概算所要額	68,691,000円	2010策定時概算所要額	67,977,000円	2010策定時概算所要額	67,977,000円

約束.2-(1)

ひろさき農業・産業おこしに 取り組みます。【農業振興】



現状と課題

- 生産量日本一のりんごを地域資源として活用していくことが課題となっています。
- 農業従事者の高齢化と後継者不足の解消が課題となっています。
- 消費者の安全・安心志向に対応した環境にやさしい農業の促進が求められています。
- 農業への理解と地産地消の推進が課題となっています。

めざす姿

産地が見える農産物の生産が拡大し、農業所得が向上します。

指標

めざす姿の達成状況を示す指標(数値目標など)

指標名(太字は注目指標)	基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
① りんご販売額 360億円 を目指します。	(過去5年平均) 330億円	338.14億円	344億円	360億円	業務取得
② 農業生産法人数(累計) 36団体 を目指します。	(H21) 27団体	29団体	33団体	36団体	業務取得
③ 集落営農組織数(累計) 35組織 を目指します。	(H21) 26組織	27組織	32組織	35組織	業務取得
④ 果樹共済加入率 45.7% を目指します。	(H21) 33.6%	34.9%	41.1%	45.7%	業務取得
⑤ わい化栽培率 20.0% を目指します。	(H21) 16.4%	16.9%	19.4%	20.0%	業務取得
⑥ りんご海外輸出量 30,000トン (青森県産)を目指します。	(H21) 20,028トン	21,480トン	27,507トン	30,000トン	業務取得
⑦ 主要農産物直売所の販売金額 16.97億円 を目指します。	(H21) 15.7894億円	16.14152億円	16.68億円	16.97億円	業務取得

個別施策

スマイル 2 スマイル33プログラム チャレンジ 67 チャレンジ67 新規施策 新規施策 []内は事務事業数

りんご課を設置してりんご振興に全力で取り組みます。

- スマイル 2-(1)-1 りんご課の設置[1]
- チャレンジ 2-(1)-5 果樹の所得補償制度、輸入果汁原産地表示の国への働きかけ[4]
- チャレンジ 2-(1)-6 りんご海外輸出の促進[3]
- チャレンジ 2-(1)-7 果樹共済加入促進、わい化栽培促進、りんご加工品開発の支援と病害虫に強い品種づくり・土づくりの取組強化、火傷病侵入防止[9]
- 新規施策 2-(1)-15 りんご販売促進活動[2]

農業の担い手育成に取り組みます。

- チャレンジ 2-(1)-8 後継者育成を全力で支援、農業後継者配偶者探しの支援[5]
- チャレンジ 2-(1)-9 技術習得・就農斡旋・農地情報提供等の支援と遊休農地の解消など農用地利用計画の検討と集落営農や生産法人化のモデル化支援[6]

生産地が値段をつけられる農業にしていきます。

- スマイル 2-(1)-2 市内への直販店(産直マルシェ)の誘導、他県他都市との産直販売の交流実施[2]
- チャレンジ 2-(1)-10 農産品の地域ブランド化の推進、弘前ブランド認証制度の導入[1]
- チャレンジ 2-(1)-11 新品種開発とマーケティングの連動・強化、二次加工品の高付加価値化の支援[2]

地産地消の拡大をはじめ地域力総結集で農業振興を図ります。

- チャレンジ 2-(1)-12 学校給食への地元産品の利用促進[1]
- チャレンジ 2-(1)-13 米粉製粉場整備の誘導による米の消費拡大促進[1]
- チャレンジ 2-(1)-14 冬の農業の育成強化、農商工連携による農業経営支援[2]

農家の皆さんと対話を進め農業政策に反映させます。

- スマイル 2-(1)-3 生産・加工・流通・販売関係者による「ひろさき農政会議」で施策検討・展開[1]
- スマイル 2-(1)-4 農家の皆さんと膝を交えて対話する「青空座談会」の定期実施と農業女性の意見反映と地位向上の支援[2]

年度別概算所要額

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
決算額	34,964,000円	当初予算額	188,829,000円	当初予算額	170,596,000円	2012策定時概算所要額	166,700,000円
2010策定時概算所要額	77,402,000円	2010策定時概算所要額	132,845,000円	2010策定時概算所要額	147,172,000円	2010策定時概算所要額	82,328,000円

アクションプラン2010からの主な変更点等

指標

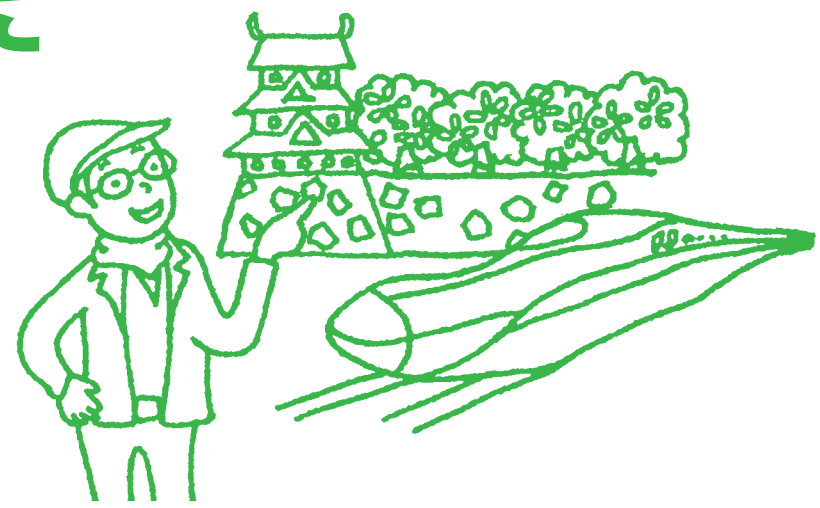
- 「めざす姿」の表記を変更
- 指標①を「農業産出額」から「りんご販売額」に変更(「農業産出額」は関連データの国等の公表時期が遅く、アクションプランの翌年度評価の時期に間に合わないため。販売額は農業産出額と類似する指標であり、代表的な弘前産農産物としてのりんごの数値は、市の農業の態様を概括的に示すものと考えられる)
- 「農業産出額」を関連指標として設定
- 旧指標「新規就農者数(累計)122人を目指します。」を削除(指標②、③による組織の増加が、新規就農の雇用増加にも繋がるため)
- 指標④「基準値」・「H22実績」・「H24目標値」・「H25目標値」の変更(基準値の年度を、加入促進年度(H20)から加入実績年度(H21)の値に変更することに伴う)
- 指標⑤「基準値」・「H22実績」・「H24目標値」の変更(基準値の年度を、調査対象年度(H20)から調査年度(H21)の値に変更することに伴う)
- 旧指標「主要農産物直売所の利用者数1,325,000人を目指します。」を削除(第三者評価による提言)

個別施策

- 2-(1)-6の事業数を「2」から「3」に変更
- 2-(1)-8の事業数を「4」から「5」に変更
- 2-(1)-9の事業数を「5」から「6」に変更
- 2-(1)-11の事業数を「1」から「2」に変更
- 2-(1)-15「りんご販売促進活動」(2事業)を項目として追加

約束.2-(2)

ひろさき農業・産業おこしに 取り組みます。【観光振興】



現状と課題

- 平成22年12月4日東北新幹線全線開業、平成23年弘前城築城400年祭等観光客誘客のため絶好の機会を迎えましたが、平成23年3月に起きた東日本大震災により観光関連産業に大きな影響が出ています。
- 通年観光の定着に係る受入態勢の整備が課題となっています。
- 観光スタイルの多様化と広域的周遊観光への対応が課題となっています。
- 外国人観光客の誘客促進が課題となっています。
- 地元特産品の知名度定着と販路拡大が課題となっています。

めざす姿

東北新幹線全線開業や弘前城築城400年祭などを契機に、交流人口が増加することによって、観光関連産業が活性化し、雇用拡大が図られます。

指標

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名（太字は注目指標）	基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
① 観光入込客数500万人を目指します。(約10%増)	(H22) 455.1万人	455.1万人	450万人	500万人	青森県観光入込客統計
行祭事・イベント観光入込客数550万人を目指します。(約13%増)	(H22) 485.3万人	485.3万人	490万人	550万人	青森県観光入込客統計
② 宿泊者数42万人を目指します。(約27%増)	(H22) 33万人	33万人	36万人	42万人	青森県月例観光統計
③ 観光消費による経済波及効果額530億円を目指します。(30%増)	(H20) 408.07億円	—	480億円	530億円	業務取得
④ 外国人宿泊者数6,400人を目指します。(約77%増)	(H22) 3,620人	3,620人	4,800人	6,400人	青森県観光入込客統計



個別施策

スマイル ◯ スマイル33プログラム チャレンジ ◯ チャレンジ67 新規施策 ◯ 新規施策 [] 内は事務事業数

観光を起爆剤に“ひろさき産業(しごと)おこし”に取り組みます。

スマイル 2-(2)-1 観光振興推進部局の設置、観光振興アクションプログラム策定と観光関連予算の増額 [2]

「3つの世界一(りんご、さくら、白神山地)」と「四大まつり」などの魅力を国内外に発信して、世界中の人が訪れる“国際都市HIROSAKI”をつくります。

- スマイル 2-(2)-2 首都圏で各種メディアに弘前を売り込む専任チーム(在東京)の設置 [1]
- スマイル 2-(2)-3 世界自然遺産白神山地の玄関口としての発信強化 [1]
- チャレンジ 2-(2)-4 国内外のマスコミや旅行エージェントのキーパーソンを招へいし、効果的な誘客活動を展開 [1]
- チャレンジ 2-(2)-5 近隣市町村との連携による首都圏での物産販売・観光PR機能の強化 [4]
- チャレンジ 2-(2)-6 マーケットが急拡大している中国など東アジアからの誘客活動を本格展開 [1]
- チャレンジ 2-(2)-7 映画、ドラマ、テレビCMの撮影誘致(フィルムコミッション)のトップセールス [1]
- チャレンジ 2-(2)-8 ねぶた祭りなどの更なる誘客や街全体への波及を促進 [5]

受入態勢を整備して、“また来たい、住みたい弘前”をつくります。

- チャレンジ 2-(2)-9 農村“楽園づくり”による大都市圏在住者の移住支援や二地域居住を促進 [2]
- チャレンジ 2-(2)-10 観光ホスピタリティ運動(交通事業者、市民など一体化)と観光資源市民研修の強化 [1]
- チャレンジ 2-(2)-11 弘前観光情報の一元化(ポータルサイトの構築、中国語などの拡充) [1]
- チャレンジ 2-(2)-12 新幹線新青森駅からの誘客のための二次交通の充実 [1]
- 新規施策 2-(2)-13 弘前シティプロモーション推進事業(都市の魅力度向上活動) [1]

アクションプラン2010からの主な変更点等

指 標

- 「現状と課題」の表記を変更
- 「めざす姿」の表記を変更
- 「①観光客入込数500万人を目指します。(約10%増)」の基準値、実績、目標値の修正と行祭事・イベント観光入込客数の基準値、目標値を設定(H22)(平成22年から国の共通基準に基づき算出したことから、青森県観光入込客統計概要の公表値を使用)
- 「②宿泊者数42万人を目指します。(27%増)」の基準値、実績、目標値の修正(平成22年から県が市町村ごとの数値を公表しないことから、これに替わる指標として県が公表している月例観光統計を使用する)
- 「③観光消費による経済波及効果額530億円を目指します。(30%増)」はH24年に目標値を設定
- 「④外国人宿泊者数6,400人を目指します。(77%増)」の基準値、目標値の修正(市算出値を基準値としていたが、青森県観光入込客統計概要の公表値を使用)
- 旧指標「ホテル旅館の地元食材調達率の向上を目指します。」を削除
- 旧指標「観光振興による新規雇用を増やします。」を削除
- 関連指標「市独自の調査による宿泊者数(推計値)の推移」を追加

個別施策

- 個別施策の追加2-(2)-13弘前シティプロモーション推進事業(都市の魅力度向上活動)

年度別概算所要額

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
決算額	69,391,000円	当初予算額	158,646,000円	当初予算額	222,419,000円	2012策定時概算所要額	152,688,000円
2010策定時概算所要額	75,260,000円	2010策定時概算所要額	169,541,000円	2010策定時概算所要額	99,491,000円	2010策定時概算所要額	103,942,000円

約束.2-(3)

ひろさき農業・産業おこしに 取り組みます。【商工業振興】



現状と課題

- 金融不安による世界的な景気の後退以降、地域経済は低迷が続き、有効求人倍率が低水準で推移するなど、厳しい雇用環境にあります。
- 地域経済の活性化を図るため、地域資源を活かした新商品の開発支援や起業家等の育成による新たな仕事おこし、産学官連携による新産業の創出、企業の経営基盤の強化や企業立地の促進による雇用の安定と確保、中心商店街の空き店舗解消による賑わいのある街づくりを進めていくことが求められています。

めざす姿

にぎわい創出による商業・サービス業の活性化と、地域資源を活かした工業の振興により、雇用拡大が図られます。

指 標

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名（太字は注目指標）	基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
① 施策の取り組みによる新規雇用（累計）391人を目指します。	0人	100人	347人	391人	業務取得
② 農工商連携等振興施策の展開による商品化数（累計）34件を目指します。	0件	4件	24件	34件	業務取得
③ 技術開発等支援件数（累計）20件を目指します。	0件	6件	16件	20件	業務取得
④ 起業化支援施策の展開による起業家創出数（累計）15人を目指します。	0人	2人	10人	15人	業務取得
⑤ 中心商店街空き店舗率8.5%を目指します。	^(H21) 12.8%	12.0%	9.6%	8.5%	業務取得
⑥ 誘致企業における従業員数 5,560人を目指します。	5,503人	5,503人	5,540人	5,560人	業務取得

関連指標	従業者数	(H22) 85,226人	85,226人	—	—	業務取得
関連指標	有効求人倍率（弘前公共職業安定所管内）年平均	(H22) 0.41%	0.41%	—	—	業務取得
関連指標	第3次産業の総生産額	(H20) 4811.94億円	—	—	—	業務取得
関連指標	市内製造業の製造品出荷額	(H22) 1633.05億円	1633.05億円	—	—	業務取得
関連指標	新規求人数（弘前公共職業安定所管内）	(H22) 15,554人	15,554人	—	—	業務取得

個別施策

スマイル スマイル33プログラム チャレンジ チャレンジ67 新規施策 新規施策 []内は事務事業数

地域資源の総動員による商品づくりとマーケティングの強化で、仕事おこしを図ります。

- スマイル 2-(3)-1 産学官金の連携による“ひろさき産業振興会議”の設置 [1]
- スマイル 2-(3)-2 “仕事おこしプロジェクトチーム”（しごとづくり、新産業創造、雇用対策などを担当）の設置による仕事づくり施策（オンリーワン技術の活用など）の積極的展開 [2]
- スマイル 2-(3)-3 “BUYひろさき”運動（地元産品活用の公共調達を促進） [1]
- チャレンジ 2-(3)-5 官民一体型での弘前情報チラシ作戦（通販や市役所郵便への添付） [2]
- 新規施策 2-(3)-11 農商工連携等による食産業の育成 [1]
- 新規施策 2-(3)-12 ものづくり産業の振興 [2]

弘前の強みを活かした企業立地、誘致を図ります。

- スマイル 2-(3)-4 首都圏等在住の弘前市ゆかりの人々をメンバーとする企業誘致応援隊の結成 [1]
- チャレンジ 2-(3)-6 北東北の中核都市として、民間企業や公的団体の弘前市への着実な立地を推進 [1]

起業や産業を支える人づくりに取り組みます。

- チャレンジ 2-(3)-7 起業実践トレーニング道場の実施と起業家交流プラットフォーム（セミナー・交流会の定期開催）構築 [1]
- チャレンジ 2-(3)-8 地域資源の活用、地域課題の解決に取り組むコミュニティビジネスやソーシャルビジネスの育成 [1]
- チャレンジ 2-(3)-9 店舗スペースのシェアリングによる起業サポート [1]
- 新規施策 2-(3)-10 空き店舗対策の推進 [2]

年度別概算所要額

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
決算額	52,210,000円	当初予算額	153,858,000円	当初予算額	152,512,000円	2012策定時概算所要額	95,447,000円
2010策定時概算所要額	28,569,000円	2010策定時概算所要額	131,100,000円	2010策定時概算所要額	85,900,000円	2010策定時概算所要額	18,900,000円

アクションプラン2010からの主な変更点等

指 標

- 「めざす姿」の表記を変更
- 「①施策の取り組みによる新規雇用」の数値目標を上方修正
- 旧指標「農商工連携対策支援事業所数（累計）20件を目指します。」を修正（支援事業所数から商品化数に変更）
- 旧指標「新商品・新技術開発支援事業所数（累計）50件を目指します。」を修正（支援事業所数から支援件数に変更）
- 旧指標「起業家支援事業所数（累計）15件を目指します。」を修正（支援事業所数から起業家創出数に変更）
- 旧指標「誘致企業数（累計）5社を目指します。」について、誘致企業に関する指標を従業員数へ変更（第三者評価による提言）
- 関連指標「従業者数」を追加（第三者評価による提言）※市民税（個人）の給与所得申告者数
- 関連指標「有効求人倍率（弘前公共職業安定所管内）年平均」を追加（第三者評価による提言）
- 関連指標「3次産業の総生産額」を追加（第三者評価による提言）
- 関連指標「市内製造業全体の製造品出荷額」を追加（第三者評価による提言）
- 関連指標「新規求人数（弘前公共職業安定所管内）」を追加（第三者評価による提言）

個別施策

- 2-(3)-10～2-(3)-12の施策追加

約束.3-(1)

魅力あるまちづくりを進めます。【生活環境】

現状と課題

- 弘前らしい景観が失われつつあるため、弘前の資源を活かした景観形成が課題となっています。
- 中心市街地の活力が低下してきているため、にぎわいの回復が課題となっています。
- 少子高齢化や地域コミュニティの希薄化、社会参加の進展等、社会情勢の変化に伴い、安全、安心な生活環境の整備が課題となっています。
- モータリゼーションや少子化の進展に伴い、公共交通利用者が減少しているため、公共交通の利便性向上と持続的な交通体系の構築が課題となっています。
- 心の豊かさを求める時代が到来し、自然や地域資源を活かした地域づくりが課題となっています。



めざす姿

地域資源・資産の効果的な活用によるまちづくりや住環境の整備を進め、市民が暮らしやすい魅力あるまちになっています。

指標

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名（太字は注目指標）	基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
① 弘前の景観に魅力を感じる市民を増やします。	—	51.4%	53.4%	54.4%	市民評価アンケート
② 中心市街地活性化基本計画に掲げる目標指標 中心市街地歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）25,000人を目指します。	(H21) 18,018人	18,226人	22,500人	25,000人	業務取得
③ 計画的に側溝整備を進めて、道路利用者の安全確保と良好な道路環境の維持を図ります。側溝整備延長（m）	(H21) 3,710m	6,835m	12,726m	16,176m	業務取得
④ 「伝統的建造物群保存地区」である仲町地区の電線類の地中化を進めて、安全かつ円滑な道路交通の確保と、歴史的街並みの保全や景観向上を図ります。無電柱化整備延長（m）	(H21) 100m	100m	870m	1,210m	業務取得

⑤ 安全・安心な生活環境だと思える市民を増やします。	—	23.1%	25.0%	28.0%	市民評価アンケート
⑥ 持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通路線の見直しを実施します。 H23計画策定を踏まえ、H24において目標値を設定	—	—	—	—	業務取得
関連指標 弘前の景観に魅力を感じる来街者の割合 H24の基準値取得後に目標値を設定	—	—	—	—	業務取得

個別施策

スマイル ◯ スマイル33プログラム チャレンジ ◻ チャレンジ67 新規施策 ◼ 新規施策 [] 内は事務事業数

弘前の魅力を活かした街づくりを実現します。

- スマイル 3-(1)-1 弘前レトロモダン街づくりを目指した景観形成 [3]
- スマイル 3-(1)-2 弘前城公園活用推進検討会議の設置 [1]
- チャレンジ 3-(1)-6 ひろさき街中にぎわいリバイバルプラン策定（土手町地区、かじまち地区、駅前地区）[1]
- チャレンジ 3-(1)-7 ひろさき街中フリーアールスペース（美術作品の展示・販売）[1]
- チャレンジ 3-(1)-8 空き店舗情報データベース整備 [1]
- チャレンジ 3-(1)-9 ライド・トゥー・パーク社会実験の実施 [1]
- チャレンジ 3-(1)-10 学園都市弘前、大学力と連携した街づくりプラン策定 [1]
- チャレンジ 3-(1)-11 街なかカラス対策の強化 [4]
- 新規施策 3-(1)-15 まちなかの新たな賑わいづくり [1]

市民にやさしい街づくりを進めます。

- スマイル 3-(1)-3 安全・安心の街づくりに必要な公共事業と冬期交通を確保するための除雪は確実に実施 [4]
- チャレンジ 3-(1)-12 やさしい街「ひろさき」づくり計画（公共施設のユニバーサルデザインの推進、福祉除雪、通学路スクラム除雪、歩道・側溝整備、etc）の制定 [1]
- チャレンジ 3-(1)-13 子ども達による安心遊び場マップの策定 [1]
- チャレンジ 3-(1)-14 二次交通体系の見直しによる利用促進と福祉バスなどの社会実験 [2]
- 新規施策 3-(1)-19 自転車利用環境の研究 [1]

年度別概算所要額

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
決算額	390,151,000円	当初予算額	535,855,000円	当初予算額	649,093,000円	2012策定時概算所要額	791,736,000円
2010策定時概算所要額	491,949,000円	2010策定時概算所要額	659,844,000円	2010策定時概算所要額	988,701,000円	2010策定時概算所要額	960,775,000円

民間ノウハウ導入などにより公共施設の効率化を進めます。

- スマイル 3-(1)-4 アセットマネジメントとファシリティマネジメントの導入（下水道と処理機能の再構築）[3]
 - チャレンジ 3-(1)-16 水道事業民営化可能性検討会議の設置 [1]
 - チャレンジ 3-(1)-17 PFI等民間ノウハウなどの導入によるインフラサービスの展開 [1]
- ### 岩木山を中心とした豊かな自然を守り、活かします。
- スマイル 3-(1)-5 岩木・相馬地区活性化事業の推進 [4]
 - チャレンジ 3-(1)-18 岩木川自然農法（無農薬・減農薬によるブランド化、循環型農業）社会実験の実施 [1]

アクションプラン2010からの主な変更点等

- 指 標**
- 約束3-(1)、3-(2)の分割に伴い、「現状と課題」及び「めざす姿」の表記を変更
 - 旧指標「弘前が住みよいと思う市民を増やします。」の削除（約束3-(1)と密接に関わる個別の指標について評価をいただくため）
 - 旧指標「中心商店街空き店舗率8.5%を目指します。」を削除（指標の再検討による）
 - 旧指標「重要伝統的建造物群保存地区（仲町地区）の消流雪溝整備を進めます。整備率76.9%整備延長1,255m」を「③計画的に側溝整備を進めて、道路利用者の安全確保と良好な道路環境の維持を図ります。側溝整備延長（m）」に修正（第三者評価による提言）
 - 指標④を追加
 - 旧指標「弘南バス（弘前市関係路線）及び弘南鉄道の利用者数5,500,000人を維持します。」を「⑥持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通路線の見直しを実施します。」に修正（第三者評価による提言）
 - 関連指標「弘前の景観に魅力を感じる来街者の割合」を追加（第三者評価による提言）

- 個別施策**
- 施策番号の整序
 - 3-(1)-15の施策追加
 - 3-(1)-19の施策追加
 - 3-(1)-1、3-(1)-3、3-(1)-4、3-(1)-5、3-(1)-11の事務事業数変更

約束.3-(2)

魅力あるまちづくりを進めます。【防災、環境・新エネルギー】



現状と課題

- 東日本大震災の経験を踏まえ、市民の防災力向上や行政としての災害対応能力を一層高めることが課題となっています。
- 少子高齢化や地域コミュニティの希薄化、社会参加の進展等、社会情勢の変化に伴い、市民の安全・安心の確保が課題となっています。
- 心の豊かさを求める時代が到来し、自然や地域資源を活かした地域づくりが課題となっています。
- 地球温暖化により環境が損なわれるおそれがあることに加え、東日本大震災後の電力不足の状況を踏まえ、新エネルギーの導入や省エネルギーの推進への対策が課題となっています。

めざす姿

災害に強く、市民が暮らしやすい魅力ある低炭素・循環型のまちになっています。

指標

めざす姿の達成状況を示す指標(数値目標など)

指標名(太字は注目指標)	基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
① 自主防災組織結成率(世帯比率)を20%に高めます。	7%	7%	12%	20%	業務取得
② 災害に対応した備蓄体制の整備を進めます。 防災アセスメントによりH24の基準値取得後に目標値を設定	—	—	—	—	業務取得
③ 安全・安心な生活環境だと思える市民を増やします。	—	23.1%	25.0%	28.0%	市民評価アンケート
④ リサイクル率14.9%を目指します。	(H21) 8.7%	—	13.4%	14.9%	業務取得

⑤ 新エネルギーを導入した公共施設数8施設を目指します。	0施設	0施設	6施設	8施設	業務取得
⑥ 新エネルギー・省エネルギーの補助制度による一般住宅への導入を推進します。目標年100件。	0件	0件	100件	100件	業務取得
関連指標 弘前市内における犯罪の件数	(H20) 1,803件	(H21) 1,656件	(H22) 1,791件	(H23) 1,581件	青森県の犯罪統計資料

個別施策

スマイル スマイル33プログラム チャレンジ チャレンジ67 新規施策 新規施策 []内は事務事業数

市民の共助の取組みを支援し、
市民や地域の生活環境の安全・安心と防災力を高めます。

チャレンジ 3-(2)-1 地域コミュニティ単位での防犯体制の整備 [1]

新規施策 3-(2)-2 市民防災力の向上 [2]

市の防災・減災体制の整備・強化を図ります。

新規施策 3-(2)-3 自治体としての防災力強化 [3]

新規施策 3-(2)-4 地域をあげた防災力向上 [1]

新エネルギーの活用、りんごの再資源化やゴミの減量化を進めます。

チャレンジ 3-(2)-5 市立病院等の公共施設への新エネルギー導入や省エネルギーの推進 [4]

チャレンジ 3-(2)-6 りんご資源リサイクル検討会議（剪定枝バイオ燃料・搾りかす利用）の設置 [2]

チャレンジ 3-(2)-7 生ゴミ市内循環システムなどの構築によるゴミの減量化 [2]

新規施策 3-(2)-8 一般住宅への新エネルギー導入や省エネルギーの推進 [1]

新規施策 3-(2)-9 次世代のエネルギー利用の構築 [2]

アクションプラン2010からの主な変更点等

指標

- 約束3-(2)の設定に伴い、「現状と課題」及び「めざす姿」の表記を設定
- 「①自主防災組織結成率（世帯比率）を20%に高めます。」を追加（東日本大震災への対応）
- 「②災害に対応した備蓄体制の整備を進めます。」を追加（東日本大震災への対応）
- 「③安全・安心な生活環境だと思ふ市民を増やします。」の目標値を設定
- 「⑤新エネルギーを導入した公共施設数」の目標値を上方修正（社会環境の変化への対応及び第三者評価による提言）
- 「⑥新エネルギー・省エネルギーの補助制度による一般住宅への導入を推進します。」を追加（社会環境の変化への対応及び第三者評価による提言）
- 関連指標「弘前市内における犯罪の件数」を追加

個別施策

- 3-(2)-2「市民防災力の向上」を追加
- 3-(2)-3「自治体としての防災力強化」を追加
- 3-(2)-4「地域をあげた防災力向上」を追加
- 3-(2)-6の「絞り」を「搾り」に修正
- 3-(2)-8「一般住宅への新エネルギー導入や省エネルギーの推進」を追加（第三者評価による提言）
- 3-(2)-9「次世代のエネルギー利用の構築」を追加

年度別概算所要額

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
決算額	15,000円	当初予算額	12,981,000円	当初予算額	80,617,000円	2012策定時概算所要額	72,143,000円
2010策定時概算所要額	100,000円	2010策定時概算所要額	6,730,000円	2010策定時概算所要額	11,410,000円	2010策定時概算所要額	7,410,000円

約束.4-(1)

子育てするなら弘前で、 を目指します。【子育て】



現状と課題

- 急速な少子化の進行や女性の社会進出の増加、家庭での教育・養育能力の低下や地域コミュニティにおける近隣関係の希薄化など子育てに関わる環境の変化が著しくなっています。

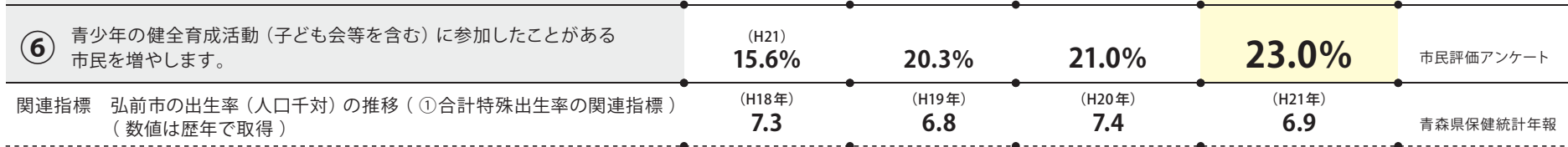
めざす姿

子育てに適した環境が整って、安心して子どもを産み、元気に育てることができ、子ども達の笑顔があふれています。

指標

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名（太字は注目指標）	基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
① 合計特殊出生率 1.30 を目指します。（市町村別合計特殊出生率（5年毎に公表）の次回公表予定：平成25年度）次頁に関連指標（出生率の推移）	(H15~H19) 1.19	—	—	1.30	人口動態統計 市町村合計特殊出生率
② 保育所待機児童数 0人 を維持します。（産休・育休明け、年度途中就労による入所基準を改善します。）	(H22) 0人	0人	0人	0人	業務取得
③ 放課後待機児童数 0人 を目指します。	(H22) 15人	0人	0人	0人	業務取得
④ 放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。	(H22) 29.5%	29.5%	40.0%	45.0%	市民評価アンケート
⑤ 子育て支援や相談体制が整っていると思う市民を増やします。	(H22) 25.3%	25.3%	35.0%	40.0%	市民評価アンケート



個別施策

■ スマイル 33プログラム
 ■ チャレンジ 67
 ■ 新規施策
 [] 内は事務事業数

“子育ては弘前で”子ども達の笑顔あふれるひろさきを目指します

- 4-(1)-1 「子育てスマイル（住まいる）アップ補助金」の支給 [1]
- 4-(1)-2 休日や夜間・早朝など保育時間の弾力化と学童保育体制の充実 [2]
- 4-(1)-3-1 子育て支援課の設置とSmile弘前子育てマスタープラン策定 [2]
- 4-(1)-3-2 Smile弘前子育てマスタープラン推進 [3]
- 4-(1)-4 子育て支援センターの整備（高齢者と子どもの交流や集いの広場、地産地消食育レストラン、地域子育てサポーター〈高齢者による夜間休日保育ボランティア〉配置、etc） [1]
- 4-(1)-5 児童館の再編・改築 [3]
- 4-(1)-6 親力向上委員会（弘前式しつけマニュアルの策定）の設置 [1]
- 4-(1)-7 子供会活動の活性化（地域コミュニティの復活） [2]

アクションプラン2010からの主な変更点等

- 指 標**
- 「①合計特殊出生率1.30を目指します。」は、市町村別合計特殊出生率が5年に一度公表されるため、次回公表時期について明記
 - 「④放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。」について、H23に基準値（H22実績）を取得したため、目標値を設定
 - 「⑤子育て支援や相談体制が整っていると思う市民を増やします。」について、H23に基準値（H22実績）を取得したため、目標値を設定
 - 「⑥青少年の健全育成活動（子ども会等を含む）に参加したことがある市民を増やします。」の目標値を修正（最終目標達成による上方修正）
 - 関連指標の追加：「①合計特殊出生率1.30を目指します。」は、市町村別の合計特殊出生率が5年に一度しか公表されないため、次回公表までの間、「めざす姿の達成状況」について、一定の評価をするための参考指標（関連指標）として、弘前市の出生率（人口千対）の推移を追記

- 個別施策**
- 4-(1)-3-2「Smile弘前子育てマスタープラン推進」を追加（自己評価による追加）

年度別概算所要額

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
決算額	117,361,000円	当初予算額	108,373,000円	当初予算額	137,786,000円	2012策定時概算所要額	119,642,000円
2010策定時概算所要額	129,385,000円	2010策定時概算所要額	93,936,000円	2010策定時概算所要額	118,352,000円	2010策定時概算所要額	118,747,000円

約束.4-(2)

子育てするなら弘前で、 を目指します。【人づくり】



現状と課題

- 急速な少子化やグローバル化等による社会環境の変化に伴い、教育を含む社会システムの再構築が課題となっています。
- 家庭の教育力の低下や地域コミュニティとの関係の希薄化により、基本的な倫理観や規範意識の低下が懸念されています。
- 地域課題に対応するために、大学等が持つ高度な知識や学生力を生かした大学等との連携を強化していく必要があります。

めざす姿

次代を担う子ども達の才能が育成され、地域の伝統や文化を誇りに思い、継承する人材が育っています。

指 標

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名（太字は注目指標）		基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
①	青森県学習状況調査における 通過率順位3位以内を目指します。	(H21) 7位	6位	4位	3位	青森県学習状況調査
	小学5年生（国・社・算・理）	(H21) 5位	7位	4位	3位	青森県学習状況調査
②	青森県学習状況調査における学習 意欲の向上を示す割合の増加を 目指します。	(H20) 70.6%	—	77.0%	80.0%	青森県学習状況調査
	小学5年生「勉強が好きだ」	(H20) 54.0%	—	58.0%	60.0%	青森県学習状況調査
③	小学校で33人学級を実施している学年の割合83.3%を目指します。	(H22) 33.3%	—	66.6%	83.3%	業務取得
④	スポーツ全国大会・東北大会参加件数56件を目指します。	(H21) 52件	60件	55件	56件	業務取得

⑤ 文化活動に関する全国大会・東北大会参加件数7件を目指します。	(H21) 5件	4件	6件	7件	業務取得
⑥ 市の文化の豊かさに満足している市民を増やします。	(H21) 84.5%	87.5%	89.0%	90.0%	市民評価アンケート
⑦ 文化・芸術活動をしている市民を増やします。	(H21) 12.1%	24.7%	20.0%	25.0%	市民評価アンケート
⑧ スポーツ、レクリエーションをしている市民(月1回以上)を増やします。	(H21) 25.0%	34.9%	37.0%	40.0%	市民評価アンケート

個別施策

スマイル スマイル33プログラム チャレンジ チャレンジ67 新規施策 新規施策 [] 内は事務事業数

未来を描き・導く人づくりを進めます。

- スマイル** 4-(2)-1 大学等研究機関との連携事業の展開 [2]
- チャレンジ** 4-(2)-3 小学校の33人学級拡充の検討 [1]
- チャレンジ** 4-(2)-4 海外の自治体との人事交流やホームステイによる弘前の国際人育成事業 [6]
- チャレンジ** 4-(2)-5 次の弘前を担い、創る「弘前リードマン」認定制度の導入 [1]
- チャレンジ** 4-(2)-6 「弘前マイスター」による出前授業 [1]
- チャレンジ** 4-(2)-7 小学校実践英語教育モデル校の試行(英語による授業の試行) [2]
- 新規施策** 4-(2)-15 中学校区を基盤とした学校力・学区力・地域力の向上「夢実現ひろさき教育創生事業」[8]

今を支えるプロフェッショナルを応援します。

- チャレンジ** 4-(2)-8 弘前マイスター認定制度の導入とネットワーク化 [1]
- チャレンジ** 4-(2)-9 弘前地場産業インターンシップ(中学・高校・大学からの受け入れ)の試行 [1]
- チャレンジ** 4-(2)-10 大学や市立図書館の専門書の充実 [2]
- チャレンジ** 4-(2)-11 企業技術者の地元大学等研究機関への研修派遣支援 [1]

文化・スポーツの才能を伸ばします。

- チャレンジ** 4-(2)-12 「目指せ日本一・世界一」弘前の才能育成アクションプログラム策定 [1]
- チャレンジ** 4-(2)-13 目指せプロフェッショナル・キャリア支援(指導者・選手の市役所への臨時雇用など) [1]
- チャレンジ** 4-(2)-14 一流に触れるため文化・スポーツなどのイベントの積極的誘致 [4]

挑戦する人を応援します。

- スマイル** 4-(2)-2 ドリームゲート事業(挑戦する若者の未来への投資) [1]

アクションプラン2010からの主な変更点等

- 指 標**
 - 指標②を修正(第三者評価による提言)
 - 指標③の目標値を修正(H24目標値達成による上方修正)
 - 指標⑧の目標値を修正(H25目標値達成による上方修正)
 - 旧指標⑨から⑫を削除
- 個別施策**
 - 4-(2)-4「海外の自治体との人事交流やホームステイによる弘前の国際人育成事業」に「海外自治体職員交流事業」、「中学生国際交流学習事業」及び「国際理解講座「キッズ・アジア」」を補充
 - 4-(2)-7小学校実践英語教育モデル校の試行に「英語活動支援員JET+1派遣事業」を補充
 - 4-(2)-15中学校区を基盤とした学校力・学区力・地域力の向上「夢実現ひろさき教育創生事業」を追加(第三者評価による提言及び職員提案)

年度別概算所要額

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
決算額	6,215,000円	当初予算額	35,125,000円	当初予算額	123,289,000円	2012策定時概算所要額	156,558,000円
2010策定時概算所要額	7,998,000円	2010策定時概算所要額	31,344,000円	2010策定時概算所要額	198,976,000円	2010策定時概算所要額	138,031,000円

約束.5

命と暮らしを守ります。

現状と課題

- 少子・高齢化や核家族化の進行により、健康や子育てに対する不安を抱える人が増えています。
- 地域的つながりが希薄化し、家庭や地域における介護機能の低下が課題となっています。
- 障がい者の多様化するニーズに対し、きめ細やかな対応ができる相談支援体制の充実が求められています。
- 地域医療においては、医師等の不足や診療科の偏在による医療スタッフの疲弊が課題となっています。

めざす姿

“赤ちゃんから高齢者まで”の命と暮らしの安心・安全づくりが充実し、市民が健康的な生活を送っています。



指標

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名（太字は注目指標）	基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
① 健康だと思う市民を増やします。	(H21) 79.8%	76.3%	83.0%	85.0%	市民評価アンケート
② 各種がん検診受診率 平成21年度の基準値19.1%から5ポイントアップを目指します。	(H21) 19.1%	21.0%	23.1%	24.1%	業務取得
③ 育児に自信がもてない人ゼロを目指します。ただし、計画期間では平成21年度の基準値8.0%から2ポイント減の6.0%とします。	(H21) 8.0%	7.1%	6.5%	6.0%	業務取得
④ 自殺者数ゼロを目指します。ただし、計画期間では48人以下とします。（内閣府 自殺総合対策大綱目標値に準じて設定）	(H21) 58人	(当市調べ) 39人	50人	48人	業務取得
⑤ 自立して生活できる高齢者の割合（身の回りのことが自分でできる高齢者の割合）79.4%を目指します。	(H21) 79.2%	78.9%	78.9%	79.4%	業務取得
⑥ 生きがいを持っている60歳以上の市民を増やします。	(H21) 62.7%	68.7%	63.3%	63.5%	市民評価アンケート

⑦ 一般の民間企業における雇用障がい者数の割合1.83%を目指します。	(H21) 1.71%	1.96%	1.80%	1.83%	業務取得
関連指標 生活に満足している障がい者を増やします。	(H19) 23.7%	—	—	28.4%	独自アンケート
関連指標 障がい者就労支援事業の利用人数を増やします。	(H22) 206人	206人	230人	255人	業務取得

個別施策

スマイル 5-1 スマイル33プログラム チャレンジ 5-1 チャレンジ67 新規施策 5-1 新規施策 []内は事務事業数

健康づくりを推進するとともに、地域医療の充実を図ります。

- スマイル 5-1 “医都ひろさき円卓会議”を設置し、医療機関のネットワークや救急医療体制を構築 [2]
- チャレンジ 5-5 自殺予防など心の健康づくり・命の尊さ教育を実施 [4]
- チャレンジ 5-6 がん検診の受診率向上運動の実施 [1]
- チャレンジ 5-7 受動喫煙による健康被害を防ぐため、公共施設での分煙と喫煙規制を強化 [1]
- チャレンジ 5-8 インフルエンザなど児童の集団予防接種制度の検討 [1]
- 新規施策 5-11 健康づくり事業(健幸ひろさき創出事業) [3]

高齢者福祉を充実します。

- スマイル 5-2 高齢者の健康診断受診率向上と介護予防事業への参加促進 [6]
- チャレンジ 5-9 介護オンブズパーソンの認定による介護サービス相談体制の強化 [1]
- チャレンジ 5-10 地域における高齢者と子どもの交流活動の促進(子育て支援センターで実施) [1]

障がい者福祉を充実します。

- スマイル 5-3 障がい者への総合支援機能(ワンストップサービス)の提供 [1]

母子保健福祉を充実します。

- スマイル 5-4 母子保健福祉の総合支援機能(ワンストップサービス)の提供 [1]

アクションプラン2010からの主な変更点等

指標

- 指標の順序を、健康、高齢者、障がい者の順で、その中で重要度の高い順とした
- 「③育児に自信がもてない人の割合6.0%を目指します。」に理想値を明示し、説明を追加(第三者評価による提言)
- 「④自殺者数48人以下を目指します。」に理想値を明示し、説明を追加(第三者評価による提言) 平成22年実績を記入(当市調べ)なお、正式な公表資料である青森県保健統計年報の公表は例年3月末である
- 旧指標⑤の中の「要介護認定を受けていない高齢者」を「身の回りのことが自分でできる高齢者の割合」と表現を変え、また、24年度、25年度目標値を第5期弘前市高齢者福祉計画・介護保険計画の目標値に変更したもの(第三者評価による提言)
- 旧指標「子育て支援や相談体制が整っていると思う市民を増やします。」は、約束4-(1)-⑤の指標を再掲したものであるため削除
- 旧指標「生活に満足している障がい者を増やします。」を関連指標に変更(毎年度数値を取得することが出来ないため)
- 関連指標に「障がい者就労支援事業の利用人数を増やします。」を追加(第三者評価による提言)

個別施策

- 健康づくりを推進する施策の整合を図るため「健康づくり事業(健幸ひろさき創出事業)」を新たな施策として追加(構成事務事業数3)

年度別概算所要額

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
決算額	88,584,000円	当初予算額	78,534,000円	当初予算額	137,817,000円	2012策定時概算所要額	143,021,000円
2010策定時概算所要額	89,238,000円	2010策定時概算所要額	95,072,000円	2010策定時概算所要額	115,347,000円	2010策定時概算所要額	116,694,000円

約束.6

津軽地域の中核都市として、 近隣市町村との 連携強化を図ります。



現状と課題

- 弘前市は北東北の政治、経済、文化の中心都市として歴史的な役割を担ってきました。
- 地方圏は大幅な人口減少とともに急速な少子・高齢化が見込まれ地域力の低下が懸念されます。
- 市町村が単独で行政サービスの水準を維持し産業の活性化を図ることは将来的に難しくなることが予想されます。

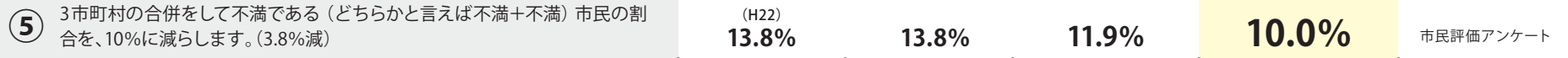
めざす姿

弘前市が津軽地域の中核的な役割を担い、近隣市町村と医療、公共交通、観光などの分野で互いに連携・協力することにより、地域全体の活性化が図られます。

指標

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名（太字は注目指標）	基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
① 定住自立圏構想連携施策数14件を目指します。	0件	—	14件	14件	業務取得
② 定住自立圏圏域市町村をつなぐ公共交通について、持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通路線の見直しを実施します。H24計画策定後に目標を設定	—	—	—	—	業務取得
③ 定住自立圏圏域の観光入込客数810万人を目指します。（約10%増）	(H22) 735.4万人	735.4万人	730万人	810万人	業務取得
④ 定住自立圏圏域の人口10万人当たりの医師数287.5人の維持を目指します。	(H22) 287.5人	287.5人	287.5人	287.5人	業務取得



個別施策

スマイル スマイル33プログラム チャレンジ チャレンジ67 新規施策 []内は事務事業数

弘前市が中心となって近隣市町村と連携・協力して、行政サービス水準の維持や地域全体の活性化を図ります。

スマイル 6-1 定住自立圏構想の推進（中心市の宣言）[2]

- ・地域全体の「医療サービス」の維持、向上
- ・地域全体の「公共交通」の維持、向上
- ・地域全体の「観光振興」を積極的に展開

チャレンジ 6-2 （再）北東北の中核都市として、民間企業や公的団体の弘前市への着実な立地を推進 [1]

チャレンジ 6-3 市町村合併の効果の最大化と一体感の醸成を推進（合併効果促進事業）[1]

アクションプラン2010からの主な変更点等

指標

- ・旧指標①及び②を削除（定住自立圏共生ビジョン策定日程に係る指標は策定をもって終了するため）
- ・旧指標「定住自立圏圏域市町村をつなぐ広域バス路線及び弘南鉄道の利用者数3,130千人を維持します。」を「②定住自立圏圏域市町村をつなぐ公共交通について、持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通路線の見直しを実施します。」に修正（地域全体の活性化のためにも、持続可能な公共交通体系の構築が必要であることから、現状の見直しを実施することを指標とした）
- ・指標③数値を取得していた県統計調査の調査方法が平成22年から変更になったので、同年の数値を基準値にして目標値と合わせて変更
- ・指標④圏域における「医療」分野の現状を示す指標を追加（圏域として取り組む主要分野である「医療」分野に関する指標が設定されていなかったため）
- ・指標⑤「良かったと思う割合」より「不満である割合」が、合併効果を押し量る数字として適当なので指標を変更

年度別概算所要額

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
決算額 22,000円	当初予算額 1,129,000円	当初予算額 187,669,000円	2012策定時概算所要額 —
2010策定時概算所要額 50,000円	2010策定時概算所要額 300,000円	2010策定時概算所要額 —	2010策定時概算所要額 —

約束.7

市職員のパワーを引き出し、 市役所の仕事力を高めます。



現状と課題

- 経済情勢の低迷に伴い税収が減少し、市としても厳しい財政状況が続いていることから、自主財源の確保・健全な行財政運営の推進が必要となっています。
- 多様化、高度化する市民ニーズを的確に把握し、課題解決のため前向きに取り組んでいく職員を育成することが必要となっています。
- 東日本大震災による社会環境の変化に伴い、将来を見据えた地域経営を推進するために、柔軟な発想力で課題等に対して的確かつ迅速に対応することができる職員の育成が必要となっています。

めざす姿

前向きに取り組む職員の育成により、市民ニーズの的確な把握やサービスの向上が図られ、効率的・効果的な行政運営が実現しています。

指標

めざす姿の達成状況を示す指標（数値目標など）

指標名（太字は注目指標）	基準値	H22実績	H24目標	H25目標	取得方法
① エリア担当制度による、町会等からの意見や要望等を措置した割合100%を目指します。	—	—	100%	100%	業務取得
② ボランティア・地域活動に参加している職員の割合70%を目指します。	(H22) 48.0%	55.1%	65.0%	70.0%	業務取得
③ 市の施策や事業、各種市民サービスの市民満足度を高めます。	(H22) 69.0%	69.0%	73.0%	75.0%	市民評価アンケート
④ 職員の仕事ぶりの市民満足度を高めます。	(H21) 63.1%	59.1%	69.0%	70.0%	市民評価アンケート

⑤ 職員の窓口対応に対する市民の不満を解消していきます。	(H21) 17.9%	16.4%	12.0%	10.0%	市民評価アンケート
⑥ 財政調整基金(※2)は、計画期間を通じて20億円を維持します。	20億円	26億円	20億円	20億円	業務取得
⑦ 地方債の繰上償還及び計画的な借入により、実質公債費比率(※3)12.4%を目指します。	(H22) 13.1%	13.1%	13.0%	12.4%	業務取得

個別施策

スマイル スマイル33プログラム チャレンジ チャレンジ67 新規施策 新規施策 []内は事務事業数

“市職員のパワー”を引き出します

スマイル 7-1 民間からの中堅・幹部職員の採用(任期付きなど多様な形態で) [1]

チャレンジ 7-3 エリア担当制度の検討など職員の地域活動への参加促進 [1]

新規施策 7-5 地域マネジメント能力を育成するための職員研修プログラムの導入 [2]

市役所の窓口改革に取り組みます

チャレンジ 7-4 窓口改革運動の実施 [1]

予算の無駄を削減します(満足感とまでいかずとも納得感を)

スマイル 7-2 職員提案による自主財源の確保(人事評価と連動した成果主義の徹底) [3]

アクションプラン2010からの主な変更点等

指 標

- 「現状と課題」の表記を追加
- 「①エリア担当制度による、町会等からの意見や要望等を措置した割合100%を目指します。」を追加(第三者評価による提言)
- 「②ボランティア・地域活動に参加している職員の割合65.0%を目指します。」の目標値を上方修正(第三者評価による提言)
- 「③市の施策や事業、各種市民サービスの市民満足度を高めます。」を追加(第三者評価による提言)
- 「⑦地方債の繰上償還及び計画的な借入により、実質公債費比率12.4%を目指します。」を追加(第三者評価による提言)
- 旧指標「各種研修受講数750人を目指します。」を削除(第三者評価による提言)
- 旧指標「窓口での対応に満足している市民を増やします。」を「⑤職員の窓口対応に対する市民の不満を解消していきます。」に修正
- 旧指標「窓口での手続き時間に満足している市民を増やします。」を削除(第三者評価による提言)
- 旧指標「職員提案が施策に反映された件数9件を目指します。」を削除(第三者評価による提言)
- 旧指標「民間活用による削減効果額181,190千円を目指します。」を削除(第三者評価による提言)
- 旧指標「単年度の市債発行額のうち地方交付税措置のないものの割合を減らします。」を削除(第三者評価による提言)

個別施策

- 【“市職員のパワー”を引き出します】に項目5を追加
- 7-2職員提案による自主財源の確保(人事評価と連動した成果主義の徹底)の事務事業内容の追加(人事評価制度を追加)

年度別概算所要額

平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
決算額	2,732,000円	当初予算額	56,073,000円	当初予算額	32,467,000円	2012策定時概算所要額	13,531,000円
2010策定時概算所要額	5,553,000円	2010策定時概算所要額	81,990,000円	2010策定時概算所要額	16,549,000円	2010策定時概算所要額	13,549,000円